

〔改訂版〕授業づくりの基本「5つの視点」

各学校においては、授業づくりの視点について全教職員で共通理解を図り、共通実践による授業改善に取り組むことが重要です。道内の優れた授業実践をもとに示した授業づくりの基本の「5つの視点」を日常の授業改善に活用してください。

〔視点1〕育成を目指す資質・能力の明確化

- 単元（題材）を見通して、育成を目指す資質・能力を明確にし、評価規準を設定する。
- 評価規準を踏まえた学習活動を、単元（題材）全体を通してバランスよく位置付ける。
- 児童の学習状況を評価規準に基づいて見取る。

〔視点2〕内容や時間のまとまりを見通した単元（題材）のデザイン

- 主体的に学習に取り組めるよう、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。
- 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定する。
- 学びの深まりをつくりだすために児童が考える場面と教師が教える場面を組み立てる。

〔視点3〕「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を支える手立て

- 一人一人の特性・学習進度等に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う。
- 一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う。
- 一人一人のよい点や可能性を生かし、多様な他者と協働する場面を設定する。

〔視点4〕全ての児童が安心して学ぶことができる環境づくり

- 日常的にICTを活用することのできる環境を整備する。
- 学級を互いに学び合う学習集団に育てる。
- 情報を正しく安全に利用できるようにする。

〔視点5〕特別な配慮を必要とする児童への指導内容や指導方法の工夫

- 障がいの種類や程度を十分に理解して指導方法の工夫を行う。
- 個に応じた指導内容や指導方法を計画的に検討し実施する。
- 「特別な支援の必要性」の理解を進め、互いの特徴を認め合い、支え合う関係を築く。